

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	北海道支部	(2) 記載者氏名:	中村 喜吉	会員番号:	10978	事務局整理記入欄	北海道 - 77
分水嶺区分:	道北	H056上紋峠 ~ H052ウエンシ岳 ~ H049天北峠	(3) 山行日:	2004年	5月	1~4日	(4) 天候

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

中村 喜吉	10978						
漆崎 隆	13040						
計				2名			
計				名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	上紋峠 藻瀬狩山 柵留山 幾山岳 ポロナイ岳 ウエンシ岳 札滑岳 天北峠												
アプローチ:	札幌 ~ 天北峠(下山地車1台デポ)、~ 上紋峠(入山口車1台デポ) (往復)												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	1日												
分水嶺到達点	H056	上紋峠 R61	藻瀬狩山	142	51	26.1	44	5	42.8	800.0		11:05	B-4
	H055	藻瀬狩山	"	142	51	14.2	44	5	58.1	925.7	11:36	11:38	"
	H054	柵留山	"	142	50	29.2	44	9	31.3	852.3	16:11		"
	CP1		"	142	51	41.1	44	9	17.0	757.0	17:20		8・9
	2日										6:30		
	H053	幾山岳	上札久留	142	52	37.3	44	10	39.9	1,030.9	9:44	9:58	"
		ポロナイ岳	名寄川上流	142	51	51.7	44	13	6.6	1,110.0	15:37	15:47	"
	H052	ウエンシ岳	上札久留	142	52	34.8	44	13	43.7	1,142.0	17:12	17:45	"
	CP2	P1083m	名寄川上流								18:10		8
	3日										6:10		
	H051	札滑岳	一の橋	142	50	48.2	44	16	0.0	899.2	9:15	9:35	"
	H050	594.6	"	142	49	25.4	44	18	18.7	595.0			"
	C3	P583肩	"	142	49	35.2	44	19	3.5	560.0	18:40		9
	4日										10:45		
分水嶺離別点	510m付近	一の橋		142	49	26.3	44	19	22.3	510.0	11:30		"
分水嶺離別点	H049	天北峠 R239											
歩行終了点		天北峠 R239	"	142	48	42.0	44	19	55.8	310.0	12:35		
												総歩行時間(休憩時間を除く):1日目	5時間02分
												総歩行時間(休憩時間を除く):2日目	10時間43分
												総歩行時間(休憩時間を除く):3・4日目	12時間55分

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
H055	藻瀬狩山				積雪のため確認不可能
H054	柵留山				"
H053	幾山岳	1等補点			"
H052	ウエンシ岳				"
H051	札滑岳		正常	良好	一部積雪のため頭だけ確認
H050	594.6				平坦で積雪のため未確認のまま通過

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

2日目に通過したP934mに標高点の標石。ウエンシ岳の山頂標識と道案内標識。C2になったP1083mの道案内標識と標高点の標石。P917mに発見した古い境界見出し標。札滑岳山頂の標高点の標石と測量時に使ったと見られるタル木の杭4本を確認。

(9) 水および植生に関連した特記事項

全般的に分水嶺上には、一部を除きおおむね樹木は無いが(積雪のため低木は不明)山全体にはダケカンバが覆っている。上紋峠から2日目のP934m間はエゾマツ、イタヤ、ハンノ木も混じるけど全体的には圧倒的にダケカンバだ。1000mを越す幾山岳山頂部の雪の薄い場所はハイ松が見られた。それより先P1024mではハイ松に混じりキバナシャクナゲ、コケモモ、ヒメイソツツジなどが見られた。このような植生は雪の早く融けた場所何箇所かで遭遇したので、札滑岳までの稜線はほぼ同じ植生で続いていると思われる。又札滑岳より高度を下げ600~500mの稜線はダケカンバがまばらになり、イタヤ、ミズナラ、ハンノ木が多くなる。太い木は勿論小径木も殆ど鹿に皮を食い剥かれていて、木は立ち枯れ無残な姿の風景が続く。地面や残雪には至る所に大量の鹿の糞が堆積し足跡も立派な獣道。立ち枯れなら我々の行動にはあまり差し支え無いが、風倒木になり倒れてしまった木があまりにも多く、スキーで倒木を越えるのには非情なアルバイトだった。そして追い討ちするような雨。踏査登山と全く関係ないのだが、自然保護も行き過ぎ保護ばかり先行すると、北海道の草木全てが鹿の胃袋に納まる日も遠くあるまい。
--

(10) その他の特記事項

ウエンシ岳南南西E142°51'51.7" N44°13'6.6" 1110mのピークがある、名寄川支流のポロナイポロ川の源流に位置していて、2万5千分の1地形図には山名の記載無し、古い記録にはポロナイ岳とかポロナイ岳と記されているが、近年ポロナイ岳と呼ばれている。いずれにしてもポロナイポロ川の源頭に存在する山なのでこれらの山名が付けられたと思う。夏は山頂に標識あり。又ウエンシ岳より立派な刈り分け道あり(地形図に記載なし)

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
